

# 日本生産管理学会『論文誌』『研究会報告』原稿執筆要綱

(言語)

第1条 原稿は和文・英文とする。

(句読点, 和文字, 括弧, 英数字・記号, フォント)

第2条 句読点は, 「,」「.」を使う。

1. 和文字(カタカナを含む)および括弧( ), 「 」, { }, < >の書体は, MS 明朝・全角とする。英数字・記号, および英数字・記号のみを囲む括弧( )は, Times New Roman とする。ただし, 本文の章と節の見出し, および図題(図タイトル)と表題(表タイトル)はMS ゴシックとする。

2. 禁則処理をする。

(全体の構成, 余白・行空け, 太字)

第3条 原稿は, 横書きで, A4用紙, カメラレディ(完全原稿)のワープロ原稿とする。

1. 1 ページ目に英文の表題(論文の表題), 所属氏名, 要約(Abstract), キーワード(Key Words)の順にこれらを書く。2 ページ目から和文に入る。
2. 2 ページ目では和文の表題, 所属氏名, 要約, キーワード, 本文の順にこれらを書く。キーワードまでは1段組とし, 本文以降は2段組とする。
3. ページ設定は, 1段組の場合, 1枚(1ページ)の字数を47字×40行×1段=1880字(10pt), 2段組の場合, 23字×40行×2段=1840字(10pt)とする。
4. 執筆順は, 表題, 所属氏名, 要約, キーワード, 本文, 注, 引用・参考文献, 謝辞・付記・付録, 著者略歴(各項目欄を「欄」と略す)とする。
5. 余白は, 和英の論文表題の上に3行分(10pt)とり, 研究論文®の場合は更に和英の表題ページの下に3行分(10pt)とる。
6. 行空けは, 1行(10pt)とし, 論文表題を除く各欄の上, 章の見出しの上, および図表の上下に行う。
7. 太字は, 所属氏名と本文を除く欄(和英の表題, 和英の要約・キーワード, 注, 引用・参考文献, 謝辞等, 著者略歴)のタイトルの記述に使う。
8. 別紙・見本とテンプレートを参照のこと。

(枚数制限, 投稿料および掲載料)

第4条 学会論文誌投稿論文の研究論文®(査読論文)8枚, 研究論文6枚を標準とする。その他,

英文論文, 研究ノート, 事例研究, 書評等の標準枚数は別に定める。なお最終ページは, 左段と右段の執筆量を同程度にして, 左右各段の下端の行位置をそろえるように調整する。

1. 枚数が標準枚数の場合, 最終ページの執筆量はページの半分以上であること。
2. 学会論文誌投稿論文原稿は別(投稿規程)に定める投稿料および掲載料を支払わなければならない。また学会論文誌論文原稿の標準枚数をオーバーした場合, 所定の料金(投稿規程に規定)を支払えば, オーバーが認められる。

(原稿の提出方法)

第5条 A4用紙を使用し, 原稿のファイルを別に定める手順に従って提出すること。

(原稿の提出期日)

第6条 学会論文誌投稿論文原稿は随時受け付けられる。なお, 研究論文®および研究論文の投稿は, 全国大会発表後, 2年以内に受付されなければならない。ただし, 研究論文®の審査結果が「D」(不適)となったものを研究論文等で投稿する場合は, 全国大会発表後, 審査期間プラス2年以内に受付されなければならない。

(表題)

第7条 論文の表題は内容を明確に表現するもので, しかも簡潔なものが望まれる。必要に応じて副題を付けてもよい。副題は主題のすぐ下を書く。

1. 和英表題はともに13pt太字・中央とし, 和英副題はともに11pt太字・中央とする。また副題は和英とも, 前後に「—」(全ダッシュ)を付ける。

(英文表題例)

## Theory of Production Management —Based on the Relevance to Practice—

(和文表題例)

### 生産マネジメントの理論 —実践との関連性を踏まえた—

2. 論文が一連の研究の部分である場合は, その一連の研究の名称とそれとの関連(たとえば第3報)を論文の副題として付記することができる。

(例)

## 海外工場における ISO14001 の導入例 —環境管理と生産管理 (第3報) —

3. 英文表題の大文字ルールは、初めと終わりの単語、名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞の頭文字は大文字とし、その他、冠詞、前置詞、接続詞、不定詞のtoは小文字とする。不明な場合は一般的な大文字ルールに準拠する。

(所属氏名)

第8条 英文および和文の所属氏名は、それぞれの表題の下に1行空けて12pt右寄せで書く。同一著者の所属と氏名の書き順は、英文ではまず氏名を書き、その下の行に所属を書く。和文では同じ行に、所属、氏名の順で書く。

1. 和文氏名の書き順は「氏」「名」とし、英文氏名は「名」「氏」の順とする。英文氏名の「氏」はすべて大文字とし、「名」は頭文字だけ大文字とし他は小文字とする。

(例) Taro SUZUKI

2. 共同研究・共著の場合で、同一所属著者がいるときは、1行3名までを限度とする。なお執筆順位の関係で、同一所属著者でも別途記してもよい。

(要約・キーワード)

第9条 英文の要約(Abstract)は10ptとし、10~20行程度とする。また和文の要約は9ptとし、7行程度とする。和文のキーワードと英文のキーワード(Key Words)はともに10ptとし、10語句以内とする。またこの欄は和英とも左右のインデントを「3字」に設定する。なお英文要約のみは、更に段落の先頭を「2.5字(英数字で5字)下げ」する。

以上までは1段組とする。

(本文)

第10条 本文以降、2段組とし、フォントサイズは10pt(ポイント)とする。

1. 数式はイタリック体とし、別行に記し、末尾に通し番号を付ける。
2. 本文は、はじめに(序論、序、問題提起など)、本論、おわりに(結論、結、むすびなど)の順に記述する。本論は、章、節、項の区別を明確にし、それぞれ下記(例)のように番号を付ける。

3. 章節項の番号と見出しの間は全角スペースとする。

(例)

### 1 はじめに

<章見出しの上は1行空ける。>

### 2 企業とシステム

#### 2.1 企業とは

#### 2.2 システムとは

##### 2.2.1 システムの構成要素

###### (1) 人間の要素

4. 人名は、原則として、原語で表記する。ただし、広く知られているもの、また印字の困難なものについてはこの限りではない。

5. 図表(写真)は、**図1**、**図2**、...、**表1**、**表2**、...のように通し番号を付け、その後に図題、表題を付ける。図番・図題は図の下に、表番・表題は表の上に付ける。出典(出所、備考等)は、図の場合は図題の下に、表の場合は表の下に明記する。

(図の例)

<図>
-----

**図1 図題**

(出典) 情報源、引用・参考文献など。

(表の例)

**表1 表題**

<表>
-----

(出典) 情報源、引用・参考文献など。

原稿用紙には直接印刷するかオブジェクトを貼り付ける。(学会論文誌の刷上りはB5版である。)あるいは図表の原紙は別紙に書き、図表の位置を空白として原紙との対応を明示する。

(注)

第11条 注は、本文当該箇所[注1]、[注2]、...を付けた上、本文の後にまとめて、[注]の欄をつくり、1, 2, ...と番号を付して番号順に記述する。

(例)

**[注]**

1. ここで、生産管理と環境管理の関連性は・・・
2. ISO14001は国際標準であるが、・・・
- ・・・

(引用・参考文献)

第12条 本文中で引用・参照した文献を、[注]の後

に（引用・参考文献）の欄をつくり，そこに一括して引用・参照順に[1], [2], [3], ...のように文献番号を付けて記述する．なお，本文中で同じ文献を複数回引用・参照した場合の文献の当欄における記述は，その文献の最初の記述のみとする．

1. 引用・参照した文献は，本文中では，当欄の文献番号を用いて，たとえば文献[3]の pp.3-5 を参照した場合，当該箇所に“([3]pp.3-5)”のように記述する．引用・参照したページを当該箇所で書かない場合には，“[5]”として括弧“( )”を書かない．  
(例) QCD は・・・([3]pp.3-5)． 工程は・・・[5]．

また著者名に言及する場合には，“著者名 ([6]p.105)”のように記述する．

(例) 鈴木([6]p.105)によれば，・・・

2. 欧文引用・参考文献の著者名の記述方法は，次のような「略記する方法」をとる．すなわち，「ラストネーム，ファーストネームの頭文字，ミドルネームの頭文字(ミドルネームがある場合)」とする．

(例) Brown, J. and Johnson, A. W.

3. 欧文の書名・誌名はイタリック体とする．和文の場合，書名は二重鉤括弧『 』で囲むが，誌名は括弧で囲まない．

4. 雑誌（著書）の中の論文名または記事名は，欧文の場合は“ ”で囲み，和文の場合は「 」で囲む．

5. 著書や雑誌の記述順は，和欧とも，著書の場合，著者名：書名，出版社名（発行年）の順で，また雑誌の場合，著者名：論文名または記事名，誌名，巻号，ページ（発行年月）の順で記述する．

6. Web ページの場合，「作成者名または著者名（分かれば）：「タイトル」（発表年月日（分かれば）），URL（閲覧年月日）」のように記述する．

7. 新聞記事の場合，「新聞名：「記事名」（著者名（分かれば）），（発行年月日，朝夕刊の別，面）」のように記述する．

8. 引用・参考文献の記述例

#### (引用・参考文献)

- [1] Brown, J.: *Operations Management*, Pacific

Production Press, Tokyo (2012).

- [2] Sato, Y.: “History of MOT”, *Journal of Production*, Vol.1, No.2, pp.21-26 (September 2012).

- [3] Johnson, A. W.: “The Elements of Production System”, in Brown, J. (ed.): *Production System*, Pacific Production Press, Tokyo (2012).

- [4] Brown, J., Johnson, A. W. and Smith, J.: *Production Management*, Pacific Production Press, Tokyo (2012).

- [5] 鈴木太郎，山田一郎：「工程改善」，生産ジャーナル，第1巻，第1号，pp.11-18 (2012/03)．

- [6] 鈴木太郎：『生産管理論』，生産出版 (2012)．

- [7] 日本生産管理学会：「学会ニュース 第39号」(2012/06/01),[http://www.e-jspm.com/document/news/JSPMNews\\_No39.pdf](http://www.e-jspm.com/document/news/JSPMNews_No39.pdf) (2013/02/13 閲覧) ．

- [8] 生産新聞：「新聞記事を参照した場合の参考文献の書き方」（山本権）(2013/02/13, 朝刊, 5面)．

9. その他，疑義ある場合は，通常広く認められている書式を一貫して使用すること．

(謝辞・付記・付録)

- 第13条 必要があれば，謝辞，付記，あるいは付録を引用・参考文献の後に書く．

(著者略歴)

- 第14条 著者略歴は原稿の最後に書く．氏名：出生都道府県（国），誕生年，最終学歴，学位（取得大学），現職，所属学会，主要著書／論文等を記述する．なお著者が複数の場合は，「所属氏名」の掲載順に著者全員について記述する．

(要綱の変更または廃止)

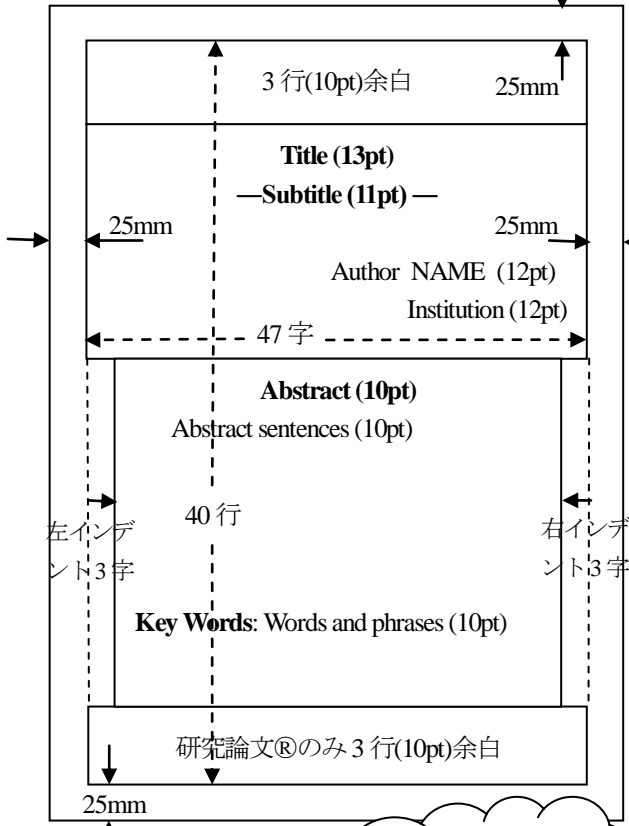
- 第15条 本要綱の変更または廃止は，編集委員会の議決によって行う．

#### 附 則

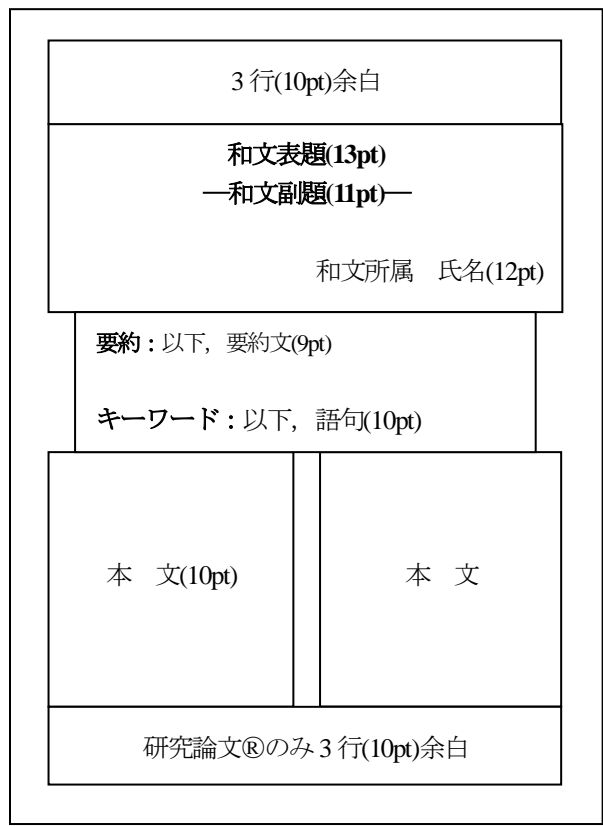
1. 本要綱は2001年3月25日から施行する．
2. 本要綱は2007年3月17日改訂する．
3. 本要綱は2013年3月23日改訂し，2013年9月30日から施行する．

原稿の組み方見本 (日本生産管理学会『論文誌』)

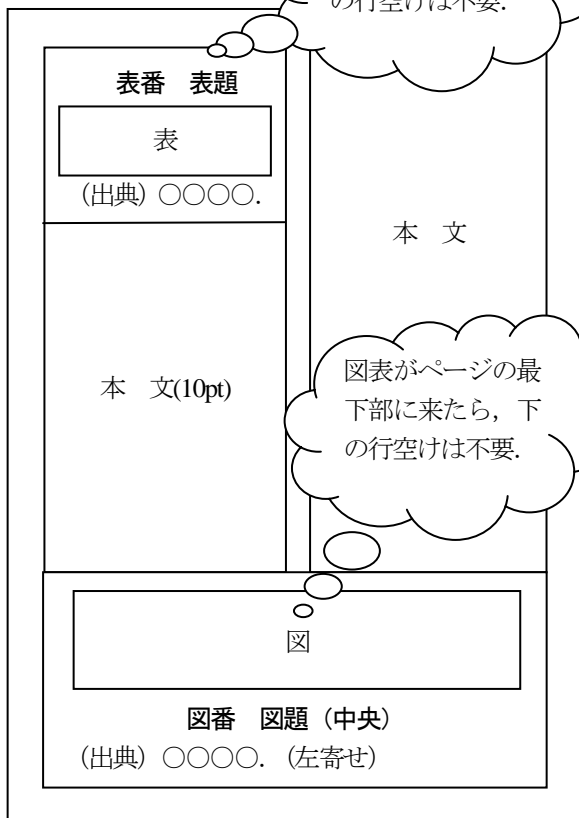
別紙1 (第1ページ目と1段組のレイアウト)



別紙2 (第2ページ目)



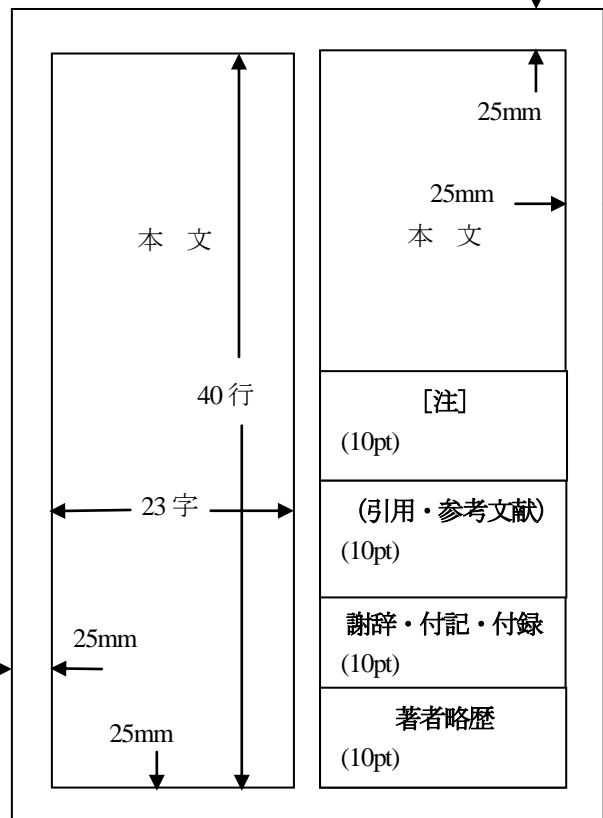
別紙3 (中間ページ)



図表がページの最上部に来たら、上の行空けは不要.

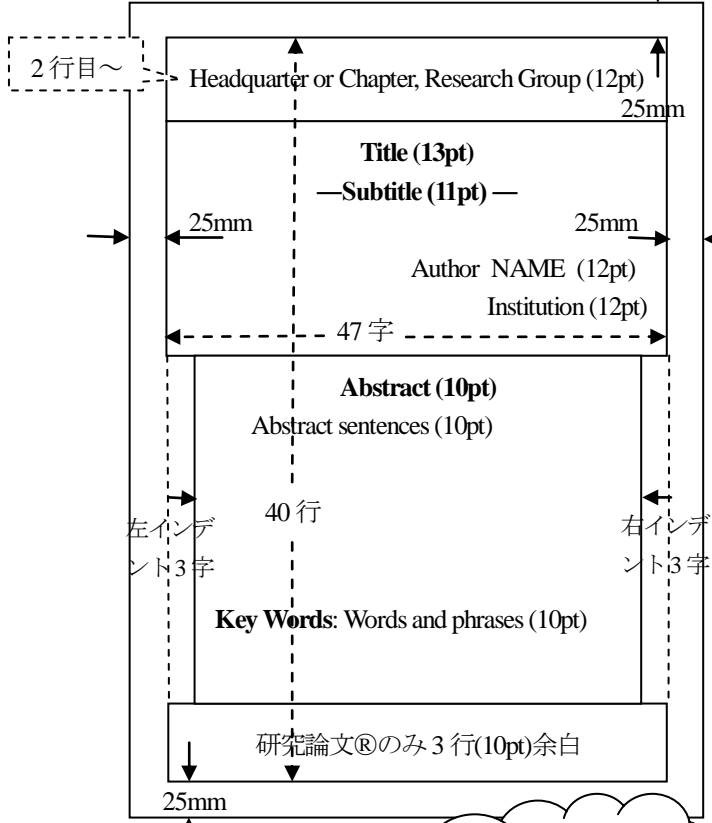
図表がページの最下部に来たら、下の行空けは不要.

別紙4 (最終ページと2段組のレイアウト)



原稿の組み方見本 (日本生産管理学会『研究会報告』)

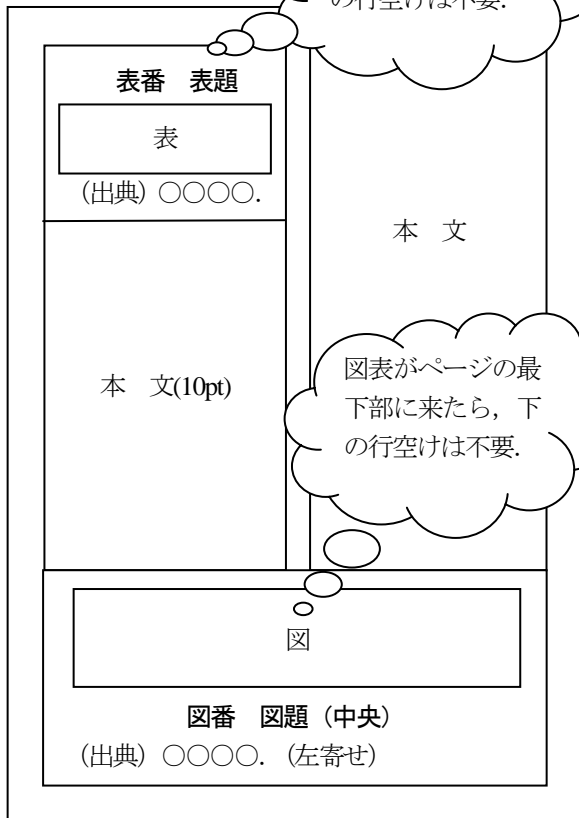
別紙1 (第1ページ目と1段組のレイアウト)



別紙2 (第2ページ目)



別紙3 (中間ページ)



別紙4 (最終ページと2段組のレイアウト)

